

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34602

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01199

研究課題名(和文) 井筒俊彦の思想形成期における東洋思想とその学問的視座

研究課題名(英文) Toshihiko Izutsu's Formulative Period of the Oriental and Its Academic Perspective

研究代表者

澤井 真 (SAWAI, MAKOTO)

天理大学・付置研究所・講師

研究者番号：40773734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,000,000円

研究成果の概要(和文)：井筒俊彦が東洋哲学を構築する形成過程を明らかにすることを研究目的とし、本研究では井筒俊彦が東洋哲学を本格的に論じる以前の著作の考察を行うことで、井筒の東洋哲学の形成過程を明らかにした。イスラーム思想、インド思想、中国思想など井筒が使用したテキストを参照しながら、井筒がそれらのテキストをいかに読み解いたかを明らかにする一方で、彼が関心を抱いていた言語学や現代哲学の潮流のなかで井筒が自らの思想をいかに位置付けていったかを考察した。これらの研究成果は、研究会や国際会議の場で発信すると同時に、ウェブサイト上で動画として公開することで、広く社会に還元している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

井筒俊彦が英文で出版した諸著作の邦訳本が出版されたことに伴い、日本において井筒への関心が高まっている。これらの英文著作は、井筒が東洋哲学を構築する形成期に執筆されたものであるが、日本の読者にはほとんど知られてこなかった。本研究では、井筒の東洋哲学の形成過程を明らかにすることを主題に据えたという点で学術的意義は高い。

また、井筒に関する研究の多くが日本語であるという課題を踏まえ、国際発信を進めるうえから、国際会議を開催し、会議内容を含んだ最終報告書を作成し、オンライン上に公開している。それによって、国内外の多くの研究者が参照可能となった点は、学術的・社会的に大きな意義を有している。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to clarify the formative process of Toshihiko Izutsu's Oriental philosophy, primarily by examining his writings before he began to construct Oriental philosophy. While analysing the classical texts including Islamic, Indian, and Chinese thought to which Izutsu referred, the members of this project sought to clarify how Izutsu understood these texts, and also to examine how he positioned his own thought within the linguistics and contemporary philosophy in which he was interested. The academic results of this project were disseminated through research meetings and an international conference. At the same time, for the benefit of society at large, one can watch videos on the website (YouTube).

研究分野：人文学

キーワード：井筒俊彦 東洋哲学 イスラーム思想 中国思想 インド思想 言語学 東洋思想

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究を進めるうえで、井筒俊彦の著作物としては、「井筒俊彦著作集」(全12巻+別巻1 中央公論社、1991年)が出版され、長らく使用されてきた。その後、2016年より「井筒俊彦全集」(全12巻+別巻1 慶應義塾大学出版会、)が出版され、全集の刊行は2019年に完結した。さらに、「井筒俊彦英文著作翻訳コレクション」(全7巻 慶應義塾大学出版会、2019年)によって、井筒の英文著作が日本語でも読むことができるようになった。それによって、それまで彼の英文著作を手取る機会がなかった人々が、日本語で井筒の東洋哲学やイスラームに関する著作を読むことができるようになった。こうした動向と軌を一にして、日本社会における井筒への関心が高まりを見せてきた。

井筒の著作の出版をめぐる状況は、井筒俊彦研究にも大きな影響を与えていた。それまでの研究の多くは、日本語著作を中心にすると同時に、彼の最晩年の著作に焦点を当てるものであった。それに対して、「井筒俊彦全集」が刊行されることで「井筒俊彦著作集」の欠点が埋められたと同時に、英文著作が翻訳されることで、井筒の東洋哲学の思想形成期を研究するための環境がようやく整った。また、日本国外出身の外国人研究者が本格的に井筒の思想研究に取り組むようになったため、井筒研究が英語でも発信されるようになってきた。しかしながら、未だ研究が進んでいない点も多く、研究成果の国際発信も限られた状況であることが課題となっている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、井筒思想が、「東洋」「東洋思想」「東洋哲学」という段階を経て展開してきたという図式の下、東洋哲学へ到る思想形成の過程を明らかにすることにある。『意識と本質 精神的東洋を求めて』(1991年)において、井筒は自らの構想する「東洋」を「精神的東洋」の語で説明した。彼の描く「東洋」概念は単なる地理的概念ではなかった。「東洋哲学」とは、諸思想のなかに時間と空間を超えて広がる哲学であったと言える。井筒は「東洋思想」のなかに共通して見られる構造化された思想的拡がりを、「共時的構造化」と表現した。この構造を解明し、一つの有機的統合体としての東洋を構築する試みこそが、井筒の東洋哲学であった。したがって、井筒がいかに「東洋」を見出し、国内外の思想家や研究者との邂逅のすえに東洋哲学を構築したかを明らかにすることが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

研究目的を遂行するうえで、以下の方法を用いた。

(1) 井筒の東洋哲学の形成過程

井筒の諸著作は、本科研の各分担者にとって専門とする研究のなかで、先行研究の一部となってきた。具体的には、イスラーム思想(クルアーン研究、イスラーム神秘主義、イスラーム神学)、中国思想(老荘思想・儒教思想、中国禅思想、老子)、インド思想(ヴェーダーンタ思想)、言語学、ギリシア思想、新プラトン主義、言語学、日本哲学などである。井筒が「東洋」という語といかに出会い、その言葉を意識し、さらに東洋思想を東洋哲学へ洗練させていったかを明らかにするため、各メンバーは、まず井筒がそれらの著作を出版した時代の学問状況を明らかにした。そのうえで、井筒が東洋の各思想伝統の古典的テキストをいかに理解したかを考察した。それによって、井筒の東洋哲学の形成過程を明らかにすることを試みた。

(2) 井筒ライブラリーでの文献調査

井筒の蔵書は、現在、慶應義塾大学のメディアライブラリー内に所蔵されている。井筒文庫での調査を通して、井筒のメモ書き等を丹念に追いながら、彼が古今東西のテキストをいかに理解したかを明らかにすることを試みた。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため限られた実施回数であったが、井筒の交友関係も含めて明らかとなる調査であった。

4. 研究成果

研究の進捗状況を確認するために定期的に研究会を開催すると同時に、最終年度には国際会議を開催した。また、研究成果を還元するためのウェブサイトを開設し、YouTubeと接合することで、広く社会に研究成果を還元することを試みた。また、最終報告書を作成し、同ウェブサイト(<https://sites.google.com/view/izutube/>)に掲載している。

○2020年度

第1回キックオフ研究会

- ・長岡徹郎(京都大学)「『井筒俊彦データベース』からみる澤井義次と鎌田繁による井筒俊彦の共同研究の意義」
- ・小野純一(自治医科大学)「言語のイメージ喚起と呪術の環」
- ・小村優太(早稲田大学)「井筒思想における神秘主義への読み替え」

第2回研究会

- ・澤井真(天理大学)「井筒俊彦の思想形成期における『東洋』概念」

○2021年度

第1回研究会

- ・仁子寿晴(同志社大学)「前田利鎌、ロジェ・アルナルデス、小林秀雄 井筒意味論の源流について幾つか指摘する」

第2回研究会

- ・加藤隆宏(東京大学)「井筒俊彦とウパニシャッド」
- ・バフマン・ザキプール(東洋大学)「イランにおける井筒俊彦の生活と思想」

第3回研究会

- ・古勝隆一(京都大学人文科学研究所)「井筒俊彦の老荘理解をめぐって シャマニズム・聖人・渾沌」
- ・小村優太(早稲田大学)「井筒俊彦によるアラビア/イスラーム哲学と20世紀」

第4回研究会

- ・石井公成(駒澤大学)「井筒俊彦の言う「東洋哲学」なるものを疑う」

第5回研究会

- ・西尾哲夫(国立民族学博物館)「『意味の深み』には何があるのか? 人間的普遍と文化的特殊のはざまを生きた井筒俊彦の言語哲学の可能性」

第6回研究会

- ・竹村牧男(東洋大学)「井筒俊彦の空海論について」

2022年度

第1回研究会

- ・澤井真(天理大学)「井筒俊彦とクルアーン研究」

第2回研究会

- ・小野純一(自治医科大学)「井筒俊彦と経験論哲学」
- ・バフマン・ザキプール(明治大学)「今日のクルアーン研究と井筒俊彦のクルアーン理解」
- ・齋藤智寛(東北大学)「禅思想研究者から見た井筒俊彦の禅理解」

国際会議「井筒俊彦の東洋哲学を再定置する」

(International Conference: Reframing the Oriental Philosophy of Toshihiko Izutsu)

1日目

第1セッション

- ・Kieko Obuse (Kobe City University of Foreign Studies, McGill University)
“Locating Toshihiko Izutsu within the Contemporary Buddhist-Muslim Doctrinal Engagement”
[小布施祈恵子(神戸市外国語大学、マギル大学)「仏教徒とムスリムの教義的相互言及の現代的展開における井筒俊彦の位置づけ」]

第2セッション

- ・Makoto Sawai (Tenri University)
“From Islamic Philosophy to Oriental Philosophy: Izutsu as a Scholar of Islam”
[澤井真(天理大学)「イスラーム哲学から東洋哲学へ イスラーム研究者としての井筒俊彦」]
- ・Ismail Albayrak (Australian Catholic University)
“Reception of T. Izutsu’s Semantic Approach to the Qur’an in Turkish Academia, with Special References to the Notion of kufr”
[イスマーイール・アルバイラク(オーストラリア・カトリック大学)「トルコの学界における井筒のクルアーンに対する意味論的アプローチの受容 クフルの概念を中心に」]

第3セッション

- ・小野純一(自治医科大学)
「意味の形而上学 言葉と心をめぐる井筒俊彦」
- ・長岡徹郎(大阪公立大学)
「西田幾多郎から井筒俊彦にみる日本哲学における比較思想の展開」

第4セッション

- ・Takaharu Oda (Trinity College, Dublin)

- “Over a Monist Gorge between Izutsu and Ohmori: George Berkeley’s Trialism”
 [小田崇晴(トリニティ・カレッジ・ダブリン)「井筒と大森の一元論的狭間を超えて
 ジョージ・バークリの三元論」]
- ・Masashi Yamakawa (Tenri University, Jichi Medical University)
 “Lockean and Berkeleian Aspects of Connotative Meaning in Izutsu's Language and
 Magic”
 [山川仁(天理大学・自治医科大学)「井筒俊彦『言語と呪術』における「内包的意味」の
 ロック的・バークリ的な諸側面」]

2日目

第5セッション

- ・ヌルッラー・サット(アンカラ社会科学大学)
 「トルコにおける井筒俊彦の認識」
- ・Juan José López (Tenri University)
 “Philosophical Translation: A Perspective from Ortega’s Theory of Translation
 and Izutsu’s Philosophy of Language”
 [ファン・ホセ・ロペス(天理大学)「哲学的翻訳 オルテガの翻訳理論と井筒の言語哲
 学からの視座」]

第6セッション

- ・井上貴恵(明治大学)
 「井筒俊彦と酔語」
- ・安藤礼二(多摩美術大学)
 「井筒俊彦と空海」
- ・西尾哲夫(国立民族学博物館)
 「『意味の深み』には何があるのか? 地球社会を共創する哲学としての井筒俊彦の可能
 性」

公開講演

- ・Armando Salvatore (McGill University)
 “Inter-Religious Cosmopolitanism Through East-West Engagement”
 [アルマンド・サルバトーレ(マギル大学)「宗教間の世界市民主義 東洋と西洋の交
 わりを通して」]

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Makoto Sawai	4. 巻 56
2. 論文標題 Appealing to Sufis: From Islamic Studies to Gender-Focused Sufism	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 107-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤井真	4. 巻 177
2. 論文標題 「ジハード論のゆくえ 同時多発テロと日本のイスラーム研究」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『季刊アラブ』	6. 最初と最後の頁 26-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤井真	4. 巻 176
2. 論文標題 「エジプト、消えゆく革命の面影」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『季刊アラブ』	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahiro KATO	4. 巻 10
2. 論文標題 The Concept of Responsibility in Indian Philosophical Tradition	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of International Philosophy	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆宏	4. 巻 706
2. 論文標題 「井筒俊彦とウパニシャッド」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『理想』	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤智寛	4. 巻 125
2. 論文標題 「釈僧崖の生涯 菩薩行としての捨身行」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『集刊東洋学』	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野純一	4. 巻 706
2. 論文標題 「存在の夜をこえて 意味の形象と垂直性」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『理想』	6. 最初と最後の頁 105-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長岡徹郎	4. 巻 706
2. 論文標題 井筒俊彦における「東洋哲学」の哲学的意義：西田哲学との比較から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『理想』	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古勝隆一他	4. 巻 96
2. 論文標題 「『文史通義』内篇四訳注」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東方学報』	6. 最初と最後の頁 117-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/269164	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田尻健太, 古勝隆一	4. 巻 43
2. 論文標題 「段玉裁『古文尚書撰異』序訳注(二)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中国思想史研究』	6. 最初と最後の頁 175-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/275641	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小村優太	4. 巻 43
2. 論文標題 「アヴィセンナの神は聖法を毀損するか: 個物にかんする神の知識の問題」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『哲学世界』	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Sawai	4. 巻 3-2
2. 論文標題 Salvation Through Saving Others: Toward a Tenrikyo-Muslim Comparative Theology for Japan Today	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Asian Christianity	6. 最初と最後の頁 211-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/25424246-00302008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤智寛	4. 巻 124
2. 論文標題 『統高僧伝』感通篇・釈道英伝に見る中国六・七世紀の仏教	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『集刊東洋学』	6. 最初と最後の頁 66-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古勝隆一	4. 巻 95
2. 論文標題 「衰世の菩薩戒弟子皇帝 南朝陳における王権と佛教」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東方学報』	6. 最初と最後の頁 51-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/261838	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古勝隆一他	4. 巻 95
2. 論文標題 「『文史通義』内篇三訳注」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東方学報』	6. 最初と最後の頁 227-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/261842	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田尻健太、古勝隆一	4. 巻 42
2. 論文標題 「段玉裁『古文尚書撰異』序訳注(一)」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中国思想史研究』	6. 最初と最後の頁 91-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/263257	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小村優太	4. 巻 20
2. 論文標題 古典期イスラーム神学とアラビア哲学における創造と流出の概略	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『新プラトン主義研究』	6. 最初と最後の頁 16-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 澤井真
2. 発表標題 「イスラーム神秘主義の近代 ムハンマド・アブドゥッフの改革思想」
3. 学会等名 印度学宗教学会第62回学术学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤井真
2. 発表標題 「井筒俊彦とイスラーム研究 東洋哲学前夜の思想を探る」
3. 学会等名 日本学術振興会カイロ研究連絡センター懇話会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤井真
2. 発表標題 「井筒俊彦と東洋 イブン・アラビー思想との出会い」
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学术大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤井真
2. 発表標題 「井筒俊彦の描いた「東洋」 イスラーム研究との関わりから 」
3. 学会等名 国立民族学博物館みんぱく特別研究
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古勝隆一
2. 発表標題 「井筒俊彦の老荘理解をめぐる シャマニズム・聖人・渾沌」
3. 学会等名 井筒俊彦の思想形成期における東洋思想とその学問的視座・第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小村優太
2. 発表標題 井筒俊彦によるアラビア/イスラーム哲学と20世紀
3. 学会等名 井筒俊彦の思想形成期における東洋思想とその学問的視座・第3回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takahiro KATO
2. 発表標題 Again on anvavyatireka in Early Advaita Vedanta
3. 学会等名 Philosophy and the Method
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤隆宏
2. 発表標題 「ヴェーダーンタ派の「無」をめぐる諸議論」
3. 学会等名 「無の探求」2021年度第3回全体研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤智寛
2. 発表標題 「道宣の感通と「東夏」意識の変遷」
3. 学会等名 第32回中唐文学学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤智寛
2. 発表標題 「“眉鬚墮落”和“不惜眉毛”:从疾病形象看中古仏教思想的演变」
3. 学会等名 東亞漢文献与文化交流国際學術研討会(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ONO Junichi
2. 発表標題 "Field Theory of Izutsu"
3. 学会等名 6th ENOJP Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長岡徹郎
2. 発表標題 「比較哲学から開かれる 井筒俊彦「東洋哲学」の哲学的可能性」
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yuta Komura
2. 発表標題 "Avicenna on Divine Providence and its Relationship to the Problem of God's Knowledge of Particulars"
3. 学会等名 Avicenna Study Group III: Surveying the summae: Comparisons and Contrasts among Avicenna's Eight Main Works (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤井真
2. 発表標題 イスラームの神秘主義研究における人間探究
3. 学会等名 科学研究費「イスラーム神秘主義の構造的理解」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澤井真
2. 発表標題 井筒俊彦の思想形成期における「東洋」概念
3. 学会等名 科学研究費「井筒俊彦の思想形成期における東洋思想とその学問的視座」第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤井真
2. 発表標題 イブン・アラビーの存在流出論における現代的展開
3. 学会等名 ギリシア・アラビア・ラテン哲学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤井真
2. 発表標題 「巣ごもり読書会『イスラームのアダム』」
3. 学会等名 科学研究費「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤隆宏
2. 発表標題 因果応報と業・輪廻説
3. 学会等名 第10回RSIS研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤智寛
2. 発表標題 《統高僧伝・雜科声徳篇》所見説法師の活動：以釈真觀和《聖武天皇宸翰雜集》為中心
3. 学会等名 「2020仏教文献与文学」国際學術研討会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野純一
2. 発表標題 言語によるイメージ喚起と呪術の環
3. 学会等名 科学研究費「井筒俊彦の思想形成期における東洋思想とその学問的視座」第1回研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 Tonaga Yasushi & Fujii Chiaki ed.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Kenan Rifai Center for Sufi Studies, Kyoto University	5. 総ページ数 207
3. 書名 Debate, Dialogue and Diversity in Sufism	

1. 著者名 小野亮介, 海野典子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 385
3. 書名 『近代日本と中東イスラーム圏 ヒト・モノ・情報の交錯から見る』	

1. 著者名 伊東貴之編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 948
3. 書名 『東アジアの王権と秩序：思想・宗教・儀礼を中心として』	

1. 著者名 富谷至編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 302
3. 書名 『岩波講座 世界歴史』(第5巻)	

1. 著者名 古勝隆一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 406
3. 書名 『中国中古の学術と社会』	

1. 著者名 古勝隆一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 社会科学文献出版社	5. 総ページ数 238
3. 書名 『漢唐注疏写本研究』	

1. 著者名 澤井 真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 288
3. 書名 イスラームのアダム	

1. 著者名 鈴木 董、近藤 二郎、赤堀 雅幸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 826
3. 書名 中東・オリエント文化事典	

1. 著者名 Makoto Sawai	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Uskudar Universitesi Yayinlari	5. 総ページ数 348
3. 書名 I. Uluslararası Tasavvuf Arastirmalari Lisansustu Ogrenci Sempozyumu Bildiri Kitabi	

1. 著者名 斎藤 明、丸井 浩、下田 正弘、蓑輪 顕量、梶原 三恵子、高橋 晃一、加藤 隆宏	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 516
3. 書名 仏典解題事典	

1. 著者名 齋藤 智寛	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 480
3. 書名 中国禅宗史書の研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小野 純一 (ONO JUNICHI) (20847090)	自治医科大学・医学部・講師 (32202)	
研究分担者	加藤 隆宏 (KATO TAKAHIRO) (80637934)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	古勝 隆一 (KOGACHI RYUICHI) (40303903)	京都大学・人文科学研究所・教授 (14301)	
研究分担者	小村 優太 (KOMURA YUTA) (20726822)	早稲田大学・文学学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	齋藤 智寛 (SAITO TOMOHIRO) (10400201)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	長岡 徹郎 (NAGAOKA TETSURO) (20884951)	京都大学・高等教育研究開発推進センター・研究員 (14301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	野元 晋 (Nomoto Shin) (10276420)	慶應義塾大学・言語文化研究所(三田)・教授 (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	酒井 真道 (Sakai Masamichi) (40709135)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究協力者	井上 貴恵 (Inoue Kie) (70845255)	明治大学・文学部・専任講師 (32682)	
研究協力者	山川 仁 (Yamakawa Masashi) (20914112)	自治医科大学・医学部・客員研究員 (32202)	
研究協力者	ホセ ロペス・パソス・ファン (JOSE LOPEZ PAZOS JUAN)	天理大学・国際学部・准教授 (34602)	
研究協力者	安藤 礼二 (Ando Reiji) (20445620)	多摩美術大学・美術学部・教授 (32640)	
研究協力者	西尾 哲夫 (Nishio Tetsuo) (90221473)	国立民族学博物館・グローバル現象研究部・教授 (64401)	
研究協力者	石井 公成 (Ishii Kosei) (10176133)	駒澤大学・付置研究所・研究員 (32617)	
研究協力者	藤井 守男 (FUJII Morio) (90143619)	東京外国語大学・その他部局等・名誉教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大川 玲子 (Okawa Reiko) (50434189)	明治学院大学・国際学部・教授 (32683)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
The International Congerence on Reframing The Oriental Philosophy of Toshihiko Izutsu	2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関